

児童会だより

思いやり宣言

No.4
R3.7月20日
文責
けやき委員

相手の気持ちを考える

くさんづけは、以前よりも意識が出来るようになり、さんづけをできている人が増えました。さんづけをできていない人には、よびかけをして、全員ができるように工夫をしています。今では、言われる前から自分でやることのできるように、いつか自分で出来るように、元気で頑張りたいです。

くほかほか言葉

自然にほかほか言葉が言える人がふえました。中には、「1日3回ほかほか言葉を使う」と目標を決めて取り組んでいるクラスや、仲間のがんばりをカードでしようかしているクラスもありました。このすてきなすがたを夏休み後も続けられるようにしよう。

く声がけ

全校のみなさんの声がけには様々な変化がありました。まず、学級の仲間だけでなく、他学年の子にも声をかけることができるようになりました。次に、相手の気持ちを考えて、やさしく声をかけることで、声をかけられた子も、すなおに声がけを聞くことができるようになりました。そして、授業中などでも声がけを広めることができました。学校生活のどの場面でも声がけはとても大切です。これからも思いやりのあるやさしい声がけを続けて、明郷小学校のみんなの心をほかほかにしましよう。

くまとめ

学級委員の話から、「さんづけ」、「ほかほか言葉」、「声がけ」はつながっていることがわかりました。さんづけをすると、ちくちく言葉がなくなり、ほかほか言葉が増えました。ほかほか言葉を使った声がけをすると、声がけをされた子もうれしくなって、笑顔になりました。このように、全校のみなさんがさんづけ、ほかほか言葉、声がけをつなげていったことで、思いやり宣言の願いでもある「相手の気持ちを考える」に大きく一歩近づくことができました。これからも「さんづけ」、「ほかほか言葉」、「声がけ」を続けていましよう。